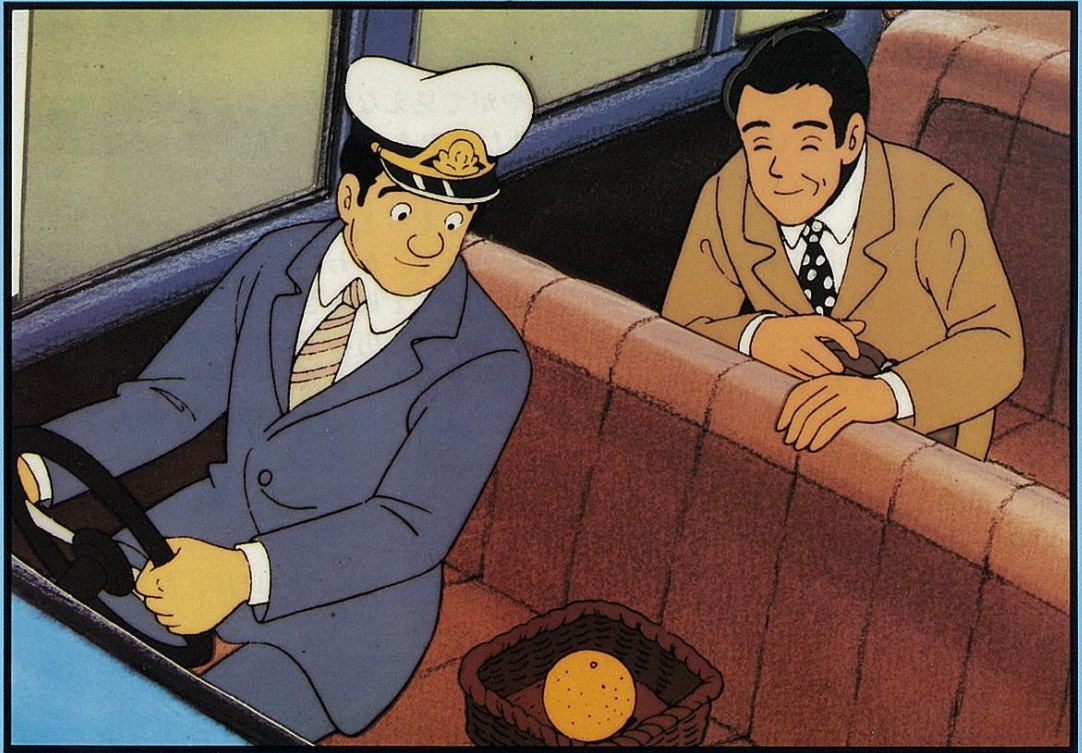


# 白いぼうし

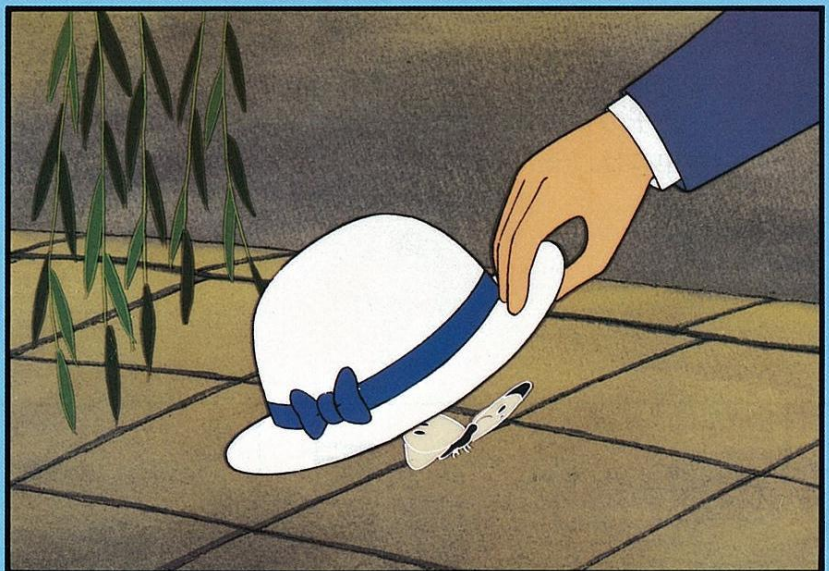


16ミリ・カラー12分  
¥150,000

あまん きみこ

製作：アポロン株式会社  
光村教育図書

配給 教 配





# 白いぼうし

タクシーの運転手の松井さんは、田舎のおかあさんが送ってくれたよいにおいのする夏みかんを車に乗せて、走っていました。

ふと、車道のすぐそばに小さいぼうしが落ちているのに気がつきました。風が吹いたら車にひかれてしまうと思って、松井さんは車からおりました。

ぼうしをつまみ上げると、何かがふわっと飛び出しました。もんしろちょうでした。

ちょうは、ひらひらまい上がって、やがて見えなくなっていました。

ぼうしのうらには赤いししゅう糸で「たけやまようちえん たけのたけお」と、ぬい取りがしてありました。

松井さんは、ちょうのかわりに、みかんをそっとぼうしの下において車にもどりました。車の中には、いつのまにか小さな、かわいい女の子がすわっていました。その女の子は菜の花横町につれてってと松井さんにたのみました。

松井さんがエンジンをかけたとき、元気そうな男の子の声が近づいてきました。つかまえたちょうを見せるために、おかあさんを連れてきたのです。

客席の女の子にさいそくされて、松井さんはあわててアクセルを踏みました。やなぎのなみ木がみるみる後ろに流れていきます。

あの子がぼうしを開けて、夏みかんを見つけたら、どんな顔をするかなと、ひとりでにわらいがこみ上げてきました。

そのとき松井さんは、おやと思いました。バックミラーには、だれもうつつていないのです。

車をとめて、まどの外を見ました。そこは小さなだん地の前の小さな野原でした。

黄色いタンポポの花の上を、しろいちょうが、たくさん飛んでいました。おどるように飛んでいるちょうをぼんやり見ているうちに、松井さんにはこんな声がきこえてきました。

「よかったね」「よかったよ」「よかったね」「よかったよ」  
シャボン玉のはじけるような、小さな小さな声でした。

車の中には、まだかすかに夏みかんのにおいがのこっていました。

株式会社 教 配

〒190-0012

東京都立川市曙町2-36-2 ファレ立川センタースクエア

TEL:042-518-9774(代) FAX:042-518-9785